



# 10・21をどう闘う

**大衆的実力闘争で**

## 共産主義者同盟

関西地方  
委員会

10・21国際反戦闘争は、昨年の10・21以降開催された実力闘争の成果の上に立って、これを進一步に大衆的基礎をもつた闘いとして闘い始め、来年春に予定されている佐藤防衛阻止の闘いに備えている。その闘争にはならない。

権力はこの間の実力闘争に対し、この闘争を担う先頭部隊に陣地を集中し、これをつむ大衆との間の離反をかろうとしてきた。われわれはこれに対して実力闘争と、大衆闘争を結合させようとしてきた。反戦青年委員会が各地で其鳴り響く効果的な闘争を組織して、この分断をめぐる勢力が成長している。反戦青年委員会に結集する効果者は、離島や街頭の闘いのなかで成長し、あらゆる効果運動の担い手としている。それは実力闘争を大衆から分断しようとする権力の陣地と対抗して、実力闘争の大衆的なものにおひひめ、全体の戦線をひらげて佐藤防衛阻止の闘いを開拓できる段階にまで現在到達した。

## 10・21の課題

①今年の一〇・二一闘争は去年と比べて、それをとじまく政治情勢が変化していることに注目したい。それは帝国主義の不均等発展と後進国民の武装闘争の發展によって、世界戦争の危機が深化した点にある。それはペトナムを中心としたインドシナ半島と、東南アジア、朝鮮にあらわれている反戦闘争 자체がそのあらわな世界戦争の危機にどう対応するのか、自國帝國主義のナショナリズム・排外主義を正面に立てた攻撃に対する

「安保粉碎・日帝打倒」の基本的



